

経済的理由で受診できない！患者さんの実態が明らかに

「75歳以上医療費窓口負担2割化」の影響による受診抑制など
「安心して医療を受けられない」「これ以上の負担は無理」の声、多数

全国保険医団体連合会

長引くコロナ禍、物価高騰、年金引き下げのもとで、昨年10月から実施された「75歳以上の医療費窓口負担2割化」などの中、医療機関での受診控えや患者さんの生活実態が非常に苦しくなっていると全国の医師・歯科医師から懸念の声が多数寄せられている。このような声を受けて、患者さんの受診状況や生活実態をつかむために医療機関の待合室やイベントなどでアンケート調査を実施した。

アンケートでは、75歳以上の2割負担の方（昨年10月から2割化対象）の経済的理由による受診控えの状況や生活実態などから、2割化の影響による受診控えが生じていることが分かった。また、高齢者の多くは定期的な受診が必要な病気を抱えており、貯蓄や食費を削って受診している姿が浮き彫りになった。自由記述欄に寄せられた声には、全世代で安心して医療にかかれぬ状況（歯科受診を我慢する、薬の伸び延ばしなど）も伺える。

調査期間：2022年10月22日－2023年1月23日（中間集計）

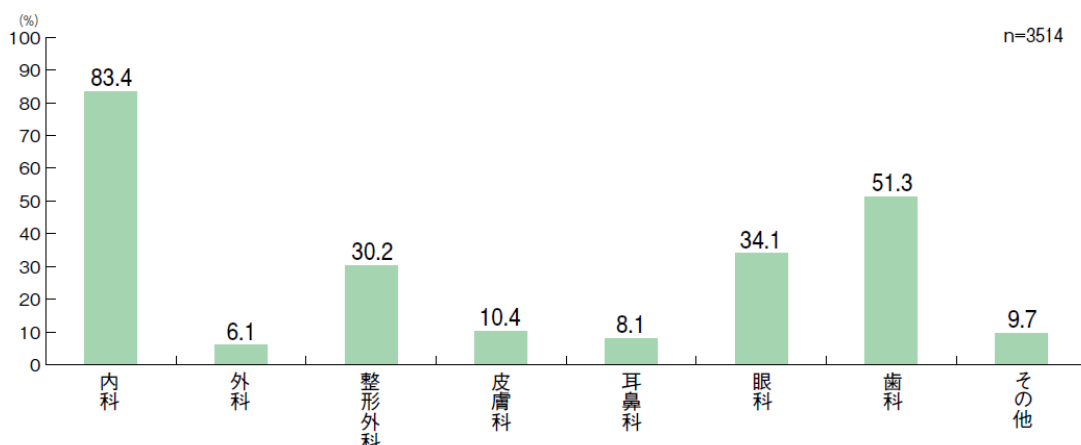
調査方法：全国の会員医療機関・保険医協会・医会のイベントでの配布、保団連HPのアンケート回答サイトなどで回答。

回答数：6397件

結果概要：詳細は保団連HPをご参照ください。

75歳以上で1つ以上の医療機関を定期的に受診している人は97.4%、複数診療科に受診している人は69.2%となった。定期的に受診している診療科は多い順に内科、歯科、眼科、整形外科となった（図①）。高齢者の多くが複数診療科で受診せざるを得ない疾患を抱えていることが分かる。

図1 定期的に受診している診療科（75歳以上・複数回答）



1. 75 歳以上の 2 割負担（435 人）の受診状況

（1）「配慮措置」でも経済的理由による受診控え 16.8%

○「過去半年以内に経済的理由で受診を控えたことがある」との回答が 75 歳以上で窓口負担が 2 割の人で 16.8%（73 人）。

○75 歳以上で窓口負担が 1 割の人は、受診控えは 12.7%（105 人）。

→政府は昨年 10 月に 75 歳以上の医療費窓口負担 2 割化を実施するにあたり、「（3 年間）の配慮措置を講じており必要な受診は妨げられない」と国会答弁していた。しかし、調査では、窓口 2 割化の影響ですでに受診抑制が生じていることが分かった。一方、75 歳以上で単身の年収が 200 万円以下の人には窓口負担 1 割が維持されたものの、相次ぐ年金引き下げ、物価高騰、医療・介護の費用負担等の影響で 1 割弱の人が受診を抑制している。「経済的理由で受診を控えたことがある」と回答した割合は、窓口負担が 2 割となった人が、1 割負担の人より 4 ポイント多かった。

図 2 経済的理由による受診控え
(75 歳以上の 2 割負担・年収 200 万円以上)

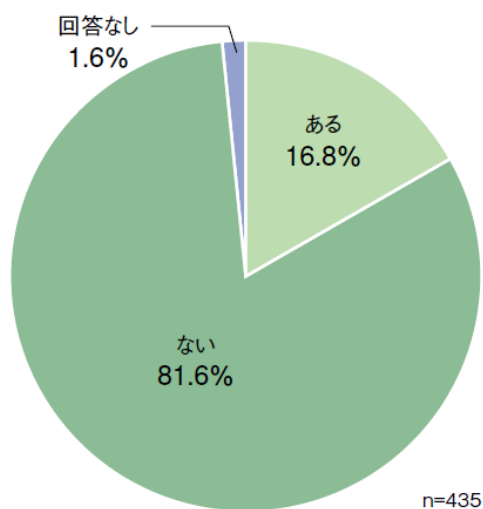
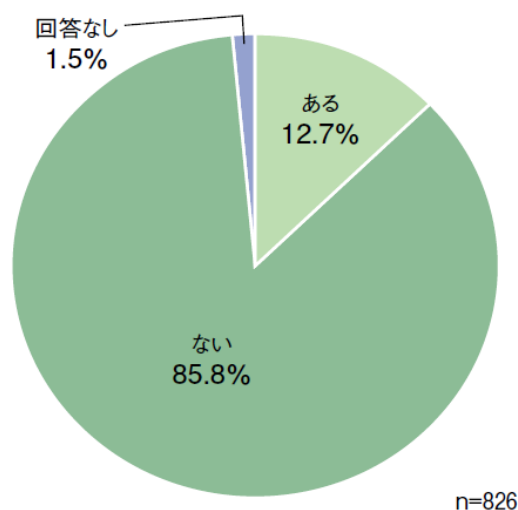


図 3 経済的理由による受診控え
(75 歳以上の 1 割負担・年収 200 万円未満)



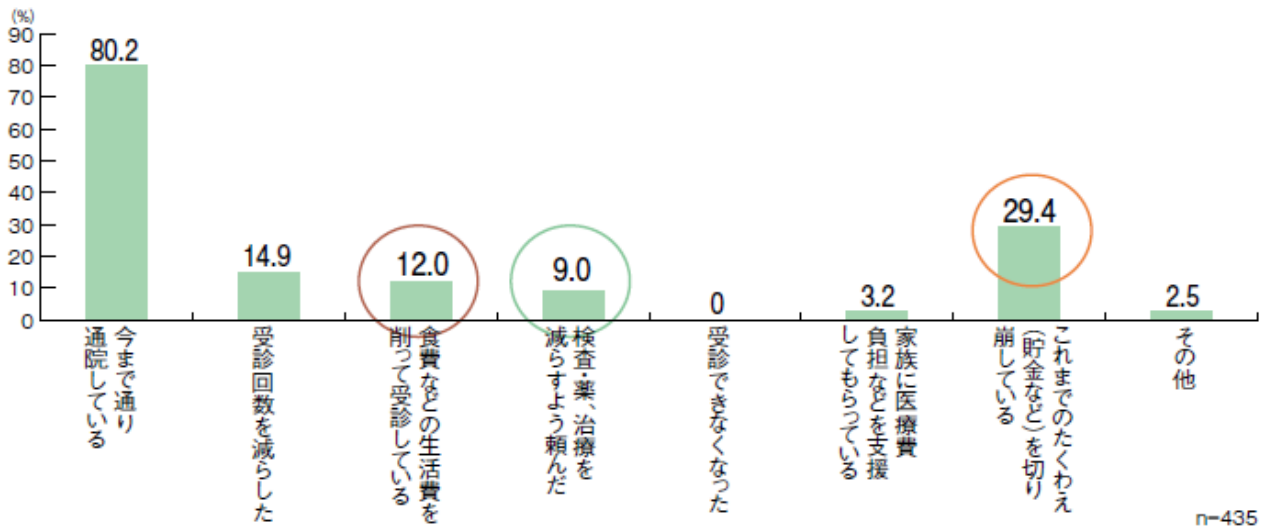
（2）暮らしと受診の状況

○75 歳以上で窓口負担が 2 割になった人（435 人）に受診状況・暮らしの様子を聞いた。80.2%（349 人）が「今まで通り受診している」と回答する一方で、「受診回数を減らした」14.9%（65 人）、「食費など生活費を削って受診」12.0%（52 人）、検査・薬などを減らした 9%（39 人）と回答しており（図 4）、受診の手控えや受診のために生活費を削っている状況が分かる。また、約 3 割が「貯金などを切り崩した 29.4%（128 人）」と回答している。これは年金削減と物価・光熱費の高騰や医療・介護の保険料引き上げ、窓口負担増等の影響が考えられる。

→高齢者の多くは定期的に受診せざるを得ない病気を抱えており、受診回数や薬を減らしていたり、貯金や生活費を削って受診している。

→経過措置終了後には、より一層受診控えが広がることも懸念される。

図4 窓口負担2割の方の受診・暮らしの様子（75歳以上・複数回答）



2. 全世代（n=6397人）の受診状況

（1）経済的理由による受診控え 19%

○「過去半年以内に経済的理由で受診を控えたことがある」のとの回答が 19%（1215人）。

（2）暮らしと受診の状況

○今まで通り受診しているが 73.3%（4691人）だが、「貯金を切り崩した」17.8%（1138人）、「受診回数を減らした」17.3%（1105人）。全世代で2割近くに受診控えや生活の苦しさなどが見られる。受診抑制「なし」と回答した人でも貯金の切り崩し（15%）、受診回数減（7%）などと回答している。

→全世代を見ても、受診控えや生活の苦しさなどが見られる。

3. 自由記述欄には、「安心して医療を受けられない」「これ以上の負担増は無理」 一切実な声溢れる（別紙参照）

<75歳以上の人の声>

- ・がん（右ほほ部細胞癌）の手術をした。7万円ほどかかった。年なので保険はずずめの涙。1割の時よかったが。近くに非課税の世帯がおられるがどちらがいいのか。家内も肝臓がんで入院せんといかんらしい。受診を控える状態でもないのここに来てやっぱり1割UPはえらい（しんどい）。（2割・86歳）
- ・受診前からどれだけ現金が必要か心配している（2割・82歳）
- ・介護保険について、私の主人ですが、以前は要介護2だったのが、介護用品を買わなくなった事と理由で要支援になりました。毎月の支払いがしんどいという事で、病院にも行かず薬も飲んでません。これっておかしいと思います。今の年金では生活はムリです。やはり、老人は早く死ぬということです。（76歳・2割）

<現役世代の声>

- ・定期的に通うつもりだったが、窓口負担と薬局の薬代が毎回負担になったので症状が完全によくなる前に受診をやめてしまった。(32歳・3割)
- ・定期受診はしているが、少しの不調や痛みは医療費の負担を考えて我慢することがある(46歳・3割)

<歯科受診>

- ・歯科も本当は定期的に行った方がいいと思うが、痛みもないので通院せず。年齢的にも気になるが優先順位を考えてしまう。生活費の大半を医療費だけに使うことは出来ない。(55歳・3割)
- ・負担が2割になったので歯科はやめました。眼科は目薬を1日3回を2回にして診察を伸ばしています。(80歳・2割)

4. 保団連の要望

一、75歳以上の医療費窓口負担2割化は1割に戻すこと

アンケート結果から「2割化」による高齢者の受診への影響が明らかとなった。生活も困窮するもとで、緊急に予算措置を行って1割に戻すことも含めて検討すべきである。

「2割化」法案が参議院厚生労働委員会で採決された際の附帯決議において、「窓口負担割合の見直しが後期高齢者の受診に与える影響を把握する」ことが決議されている。政府として、決議にある通り、速やかに受診への影響を把握すべきである。

一、後期高齢者の保険料引き上げ、介護の利用者負担2割の対象拡大など、医療・介護の負担増をしないこと

「2割化」を強行し、その影響を把握しないままに、今国会では後期高齢者の保険料引き上げる法案が提出されている。また、利用者負担2割の対象拡大など介護の負担増も夏までに結論を出すとされている。すでに受診への影響が生じているもとで、高齢者をさらに医療や介護から遠ざける負担増は許されない。

一、医療・介護の患者・利用者負担を大幅に軽減すること

今回実施したアンケートでは、全世代にわたって、負担が重く受診を手控えている状況や、将来の負担や生活への不安の声が寄せられた。すべての国民がお金の心配なく、安全・安心の医療が受けられるように、医療・介護の患者・利用者負担を大幅に軽減することが必要である。保団連は、「75歳以上の医療費窓口負担2割化」を1割に戻すことを求めている。

アンケート結果から、全世代が「安心して医療を受けられない」、「経済的な心配などで受診を控えている」状況などが明らかになった。合わせて、窓口負担増が国民を医療から遠ざけることも明確になった。統一地方選挙を好機とし、私たちの「社会保障充実」を求める声を反映させていく。

「安心して医療を受けたい!」「これ以上の負担はムリ!」
患者さんの困難や願いが溢れています
～アンケート付リーフ調査に寄せられた声（一部抜粋）～

2023/2/17

全国保険医団体連合会
医療運動推進本部

期 間：2022年10月22日～2023年1月23日（中間集計）

回答数：6,397人

方法：医療機関の待合室や保険医協会・医会のイベントなどで配布

◆75歳以上の人の声◆

昨年10月から2割負担に 「2割は負担が重い」「受診を減らすことも検討」

・介護保険について、私の主人ですが、以前は要介護2だったのが、介護用品を買わなくなった事と理由で要支援になりました。毎月の支払いがしんどいという事で、病院にも行かず薬も飲んでません。これっておかしいと思います。今の年金では生活はムリです。やはり、老人は早く死ぬということです。（76歳・2割）

・2割負担になったので来年からは受診を減らそうと思っている。軍事費に回すな。（2割・78歳）

・2割負担は大きい。保険料はたくさん払っているのに窓口2割は大反対（2割・79歳）

・脊柱管狭窄症の手術費用（15万円）を娘に出してもらった。介護の負担が急に上がって毎月2万円収めることになった。大変！（80歳・2割）

・医療や介護の保険料が高くなり困ります（2割・81歳）

・がん（右ほほ部細胞癌）の手術をした。7万円ほどかかった。年なので保険はずすめの涙。1割の時よかったが。近くに非課税の世帯がおられるがどちらがいいのか。家内も肝臓がんで入院せんといかんらしい。受診を控える状態でもないのここに来てやっぱり1割UPはえらい。（2割・86歳）

・受診前からどれだけ現金が必要か心配している（2割・82歳）

医療・介護の負担重い 1割負担でも大変

・主人が介護施設に今年始めから入所しましたが、利用料の負担が意外と多くびっくりしました。息子がいますのでなんとか出来ています。（75歳・1割）

・諸物価が次々と高騰し国民年金者にとって、生活が苦しいばかりです。年と共に体調も悪くなるばかり…ガマンしてそれでも痛みが勝てば医者に行きます。（1割・77歳）

・介護保険料が負担増で困っています。（78歳・1割）

・物価が上がり、年金額は減り、年齢的にも仕事はできず、家計を圧迫している。1割負担

でも大変なのに… (79歳・1割)

・今は元気で過ごしておりますがこれからは不安です。貯えも底がついて来たら受診もできなくなるのでは？健康に気をつけています。(1割・80歳)

・医療費がかさむ。入院(心不全、腎不全を治療中)を出来る限りしないように、生活全体を見直しているが、ヒヤヒヤ感いっぱい。病期進行と同時に多額の医療費も大きな心配です。(1割・86歳)

・年金暮らしで、たくさん受診が必要なので家族に負担をかけて申し訳なく思っている。これ以上医療制度(保障)が悪くなると困る。(88歳・1割)

◆前期高齢者(65歳～74歳)の声◆

受診控えも経験 将来への不安が強い

・病院の回数、受診料が増えてくるので出費が増え、これからは心配です。(65歳・3割)
介護保険の利用者負担やケアプラン有料化のニュースを聞くと、これからは心配になります。2割負担になったら、受診も控えていくようになると思っています。(66歳・3割)

・月末にお金がなくて受診できなかった。(67歳・2割)

・以前、病院での窓口負担が高くて受診することができなくなった。2年くらい病院に行くのを止めた。(67歳・3割)

・月3回を2回に受診、薬減らした。介護保険はどんどん給付範囲を減らし、対象者を締め出している。これは国による制度を通じた殺人行為だと考えます。福祉が人を殺すこの道は国の自殺行為であり、あってはならない。そして軍事費を増やすことは軍国主義とも考えます。軍事費を減らして、医療、福祉、教育に回す。これが人民を守る事。(72歳・2割)
ひとり暮らしで病院に行ったとき、いくらかかるか不安になる。年金はひと月5万円程度。収入もない。(72歳・2割)

・来年75歳で後期高齢者になるが75歳以上の医療費窓口負担2割負担に該当するのかわ不安です(74歳・3割)

◆現役世代の声◆

現役世代にとっても負担が重い

・生活に負担がかかるので、本当に病院を受診する時にどうしようと悩むことはストレスになる。(25歳・3割)

・定期的に通うつもりだったが、窓口負担と薬局の薬代が毎回負担になったので症状が完全によくなる前に受診をやめてしまった(32歳・3割)

・1ヶ月に何回か通ったり複数の医療にかかるとう医療費が1万は超えるので回数を減らすか我慢できるなら受診を控えている(37歳・3割)

・毎日必要な薬だとわかっているが、金銭的負担は大きいです。(38歳・3割)

・乳がん検診など、気になる検診を毎年受りたいが自費になるので、何個も検査をするのは

高額になるのでやはり控えてしまおうと考える時がある。取り返しのつかない事にならないかも心配もあり、経済面との葛藤がある (41歳・3割)

・定期受診はしているが、少しの不調や痛みは医療費の負担を考えて我慢することがある (46歳・3割)

・物価上昇の為生活するのが大変になっているので給料日以降すぐ行くようにはしていませんが、なかなか難しいこともあります。子どもの事が先にまだお金がかかるので病院に行ける様がんばります。健康が一番ですね。 (47歳・3割)

・受診が重なると医療費の負担が多少厳しく思う。 (52歳・3割)

・医療費がどんどん高くなって受診が厳しくなっている。富裕層にもっと負担してもらえばよい (53歳・3割)

・賃金は全然上がらない下でも医療費増加、食品高騰、消費税 3%から 10%で生活大変 (64歳・3割)

現役世代も将来が不安

・今はあまり病院に行かないですが、この先が不安です。 (23歳・3割)

・社会保障がどんどん上がっていけば受診控えも考えなければならぬことになりそう。 (26歳・3割)

・収入が少ないのに、医療費の負担が増えるのは死活問題だと思います。今後現状が続けば、もっと受診を控える事も増えると思います。 (38歳・3割)

・今は困っていないが、年齢を重ねるにつれ病院に通う機会も増える事が予想される。収入もいつどうなるかわからない。そのような中、将来、経済的な理由で、受診を躊躇う事のないような制度であり続けて欲しいと願っている。 (38歳・3割)

・今後、老後の保険料などが高くなりそうで心配です。 (39歳・3割)

・今はいいけど、まだ子どもも小さいので、年をとって受診が増えると怖い。 (46歳・3割)

・必要な薬なので受診はしているが、物価も上がり、給料は変わらずで生活がキツイ。このままだと、受診を控える日も来てしまうのではないかと考えてしまう。高齢者でも 2割負担の人が出てきているので、今後は両親の医療費も心配している。 (46歳・3割)

・働ける間はいいが、高齢者は大変だと思う。 (50歳・3割)

・これから先、自分たちの負担分を考えると暗い気持ちになる。1日3食たべれるのか・・・とマジで考えます。 (55歳・3割)

今は主人と 2人共働きでまだ少しは余裕ありますが、どちらか 1人になったり働けなくなったら病院に通う余裕もなくなるかもしれないし、病院どころか食べていくのも大変になるかもしれません。パートや自営業は収入も少ないので、同じ仕事をさせられるなら正職員と賃金を同じにして欲しい。税金を下げるなど社会的弱者をもっと守る社会にして欲しい。 (57歳・3割)

- ・今は働いてある程度の収入があるので 3 割負担でもなんとか支払っていますが仕事を辞めた後のことが不安です (60 歳・3 割)
- ・現在は働いているので、必要に応じて病院には行っているが、将来どんどん負担割合が高くなるのではないかと不安になる。 (61 歳・3 割)
- ・定年までは大丈夫と思われるが、定年 (65 歳) 後は心配です。 (62 歳・3 割)
- ・今はまだ現役で働いていますが、年金暮らしになったら、受診回数や薬を減らしてもらうかもしれない不安があります。 (63 歳・3 割)
- ・今後も受診を続けるのに将来的に医療費の窓口負担が変わらず高いと、病院に行くのを控えてしまいそうなので、負担が少なくなればいいと思う。 (63 歳・3 割)
- ・今後年金生活になり、今までのように高額な治療や薬代を支払い続けることができるか不安である。 (64 歳・3 割)
- ・介護保険の利用者負担やケアプラン有料化のニュースを聞くと、これからが心配になります。2割負担になったら、受診も控えていくようになると思っています。 (66 歳・3 割)

◆子育て世代の声◆

医療費助成があって助かる 高校生まで拡充を

- ・2才の子どもがいるのでよく病院には行っていますが、医療費助成がなかったらと思うとゾッとします。 (40 歳・3 割)
- ・小児の福祉医療にはとても助かっています。子どもは急に不調を訴えるものの原因がわからなかったりするのですぐ病院に連れていけるので安心です。 (5 歳・0 割)
- ・今は負担額がないので安心して病院に通えるが、子どもが学校を卒業するとなかなか病院に行けなくなるだろうと心配しています。 (44 歳、0 割)
- ・今のところ必要な受診はできていますが、是非子どもの医療費無料化は高校卒業までを実現してほしいです。 (55 歳・3 割)
- ・子ども医療費の補助制度を高校卒業までにしてほしいです。 (14 歳・3 割)
- ・子ども2人が小児喘息で毎月受診をしています。薬が多いため、明細書を見るとぞっとします。しかし、子ども医療受給券のおかげでお薬代がかからないため、大変助かっています。これが自分だったらと思うと、医療機関の分も薬局も3割で、大変なことだと思う。この制度のお陰で、毎月安心して、経済的な心配なく受診出来ています。 (40 歳・3 割)
- ・子どもの手当も減らされているので、子どもの医療費がかかるようになったら受診しにくくなるなど感じている (35 歳・3 割)
- ・子どもの医療費が自治体によって違うので、今住んでいる所だと中学生から医療費がかかってしまうので、できれば高校卒業まで無償化してほしい。 (30 歳・3 割)
- ・学生なので医療費を安くしてほしい (15、20 歳・3 割)
- ・インフルエンザ等のワクチン接種が高額なので毎年打つかを悩みます。補助していただけたらと思います (せめて学生の間だけでも) (16 歳・3 割)

保険でより良い歯科医療を！

◆歯科受診している人の声◆

2割負担になったため、歯科受診を中断せざるを得ない

- ・負担が2割になったので歯科はやめました。眼科は目薬を1日3回を2回にして診察を伸ばしています。(80歳・2割)
- ・窓口負担が2割となり、耳鼻科、眼科、歯科の受診をためらっている。(82歳・2割)
- ・年金も減らされたため歯科に行きたいところですが苦しい。この先不安だらけ。(90歳・2割)

受診したくても、経済的理由でためらってしまう

- ・歯科も本当は定期的に行った方がいいと思うが、痛みもないので通院せず。年齢的にも気になるが優先順位を考えてしまう。生活費の大半を医療費だけに使うことは出来ない。(55歳・3割)
- ・以前派遣で働いている間は受診を控えていました。特に歯科はもう何年も受診していません。気にはなるものの、費用がかかるので行くのに覚悟が必要です。(37歳・3割)
- ・歯科がとにかく高額に感じております。3か月に1度の定期検診・虫歯なしで1万円近く払い、つらいので4か月に1度にしてもらいました。次回虫歯があればまた3か月に戻さなければなりません。。。。(45歳・3割)
- ・歯科、行きたいけど費用がいくらかかるか、通院がいつまでかかるか不安で行けない。痛みが強くなると行かないと思う。(33歳・3割)
- ・子どもが3人(高校生2人と中学生1人)いますが、医療費が高校生から支払う必要性があり、今まですぐに受診していた事でもためらい、受診が遅れることがある。自分の歯科検診も、間隔を今までより空けるようお願いしている。(49歳・N/A)
- ・歯科検診を2回から1回にして医療費を安くしている。できるだけ受診しないようにしている。(65歳・3割)

受診をためらった結果、悪化してしまった

- ・歯科の定期受診(3ヶ月ごと)に通えなくなり、その間に進行してしまった歯周病により、虫歯の進行とは別に、2本の抜歯をせざるを得なくなりました。歯周病は他の大きな病気を誘発する元凶であることが判明しているのだから、国の医療費負担を軽減するためにも、歯周病予防や治療の補助を国で制度化してほしい！(67歳・0割)
- ・新型コロナウイルスの影響により収入が減ってしまい、自分自身もコロナウイルスに感染し、休んだことにより給料が激減した月がありました。その時期に歯科で治療を行っていたのですが、医療費の支払いまでお金が回らず、治療を断念せざるを得なくなりました。その結果、病状が悪化し、歯茎切開の手術をすることとなり、より多くの医療費が必要となりました。治療を断念したことを後悔しています。(28歳・3割)